

会議の概要

令和元年度 第7回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼
- | | |
|----------------|----------------|
| ○ 大山幼稚園学校運営協議会 | ○ 玉井幼稚園学校運営協議会 |
| ○ 大山小学校学校運営協議会 | ○ 玉井小学校学校運営協議会 |
| ○ 大玉中学校学校運営協議会 | |

日 時：令和元年12月 9日（月）18:30～20:45

場 所：改善センター2階 農事研修室・農事相談室

（進行 指導主事 斎藤一範）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 大山 明美）

これから第7回コミュニティ・スクール（以下CSと略記）委員会を始めます。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- 皆さんお晩でございます。師走のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
- 今日は、この後、学校関係者評価についてご講話をいただくようになります。大変参考になる内容であり、学校評価の意義と評価委員の役割についてであるのでよろしくお願いいたします。
＜渡辺博志教授の略歴紹介＞
 - ・保原小学校長を最後に退職
 - ・福島大学において国語科教育等の指導の在り方について研究
 - ・福島学院大学子ども学科において中心的な存在
 - ・大玉村では10年前から第三者評価委員としてお世話になっている。
- 12月2日（月）、文部科学省（東京都）において、令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受けた。（全国で100団体が受賞）
CS委員会のこれまでの活動が評価された結果とも捉えている。
- 過日実施した「おおたま・オータム・フェスタ」について間もなくアンケート集計結果が出るが、とてもよい評価をいただいている。ほとんどの質問項目（「活動内容は良かったと思うか。」「他校（園）やたくさんの地域の方々に協力していただいた。この活動は有意義だったと思うか。」「今回の活動を通して、大玉村への理解や愛着が深まったと思うか。」）について、「そう思う」「ややそう思う」を合わせて90%以上のよい結果であった。CS委員の皆様には心より感謝申し上げます。
- 本日の協議事項「令和2年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について」と「第11回教育フォーラムについて」は大切な内容であるので、ご検討をよろしくお願いいたします。

3 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長あいさつ

（おおたま学園コミュニティ・スクール委員会会長 伊藤 和弥）

本日はお寒い中ありがとうございます。また、渡辺先生にはご講話よろしくお願いいたします。年明け早々各校、各園において学校関係者評価を行うことになっている。今日は渡辺先生のご講話を拝聴し研修を深めてほしい。

4 諸連絡

(指導主事 斎藤 一範)

- ・本日の日程と内容について説明…学校関係者評価についての研修(講話)、次年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針についての熟議、第11回教育フォーラムについて

(教育長退席)

5 研修

(座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信)

(1) 講話「学校関係者評価の意義と評価委員の役割」

講師 福島学院大学 教授 渡辺 博志 様

- ① 学校に期待されること
 - 問題のない学校はない。問題が発生したときにいかに早く正確に解決していくかが大切
 - よい学校とは、問題や課題を学校と保護者、地域が共有している学校のことである。
- ② 教育の「今」を考える
 - 学力、体力の2極分化傾向(5段階評価3段階が2や4の段階へ移行)
 - ・ちょっと頑張ればできるようになるという価値観が後退している(→とりつく島がないような価値観へ移行する懸念がある)
 - ・自校の問題、課題を乗り越えようとする危機意識と学校・子どもの努力が必要である
 - 子どもたちの生活リズムがマイナスサイクルへ陥りがち
 - ・夜更かし→生体のリズムの乱れ→覚醒の質の低下→不健康な食生活(朝食の欠食:11歳で2割、高卒時で6割)→脳の活性不足→生活習慣病予備群
 - ・脳科学的にも問題が大きい。
 - 感受性期(教育<環境>がその子どもの能力開花に大きな影響を及ぼす時期)にすべきことをしないで身につけないまま通過してしまうと、後々苦勞が大きくなる。
 - ・母親のスキンシップ、読書週間、就学前の「遊ぶ」習慣、かけ算九九、「愛情」表現の育成等々
 - 子どもたちの「社会スキル」の緩慢な定着
 - ・世間で生きるということ＝一人前になること
 - ・社会全体で教育(教育相談)を支えるシステムづくりを進める。
 - ・リスペクト教育(尊重を基調におく教育)の充実…江戸しぐさに学ぶ
 - ・コミュニケーション力は「生きる力」の基盤
- ③ 教育活動の評価について
 - ・「評価」とは実はとてもあたたかいもの
 - ・評価とは価値を見いだして明らかにすること(よさを見つける)である。
- ④ 学校評価を「てこ」に学校教育を活性化
学校関係者評価 … 自己評価を基に評価を行う。



(2) 質疑

- 質疑の時間を10分間とっておりますので、分からないことや詳しくお聞きしたいことなどあったらお願いしたい。
- Q 改善の視点が分かりにくくなることがあるが、そのような場合はどのようにしたらよいか。
- A 改善点は何かを学校に問いかけるようにするとよい。話を聞き、先生方は来年度どこを変え

ようとしているかを聞くようにすることが大切。遠慮せずに率直に学校に意見を述べた方がよい。

Q 資料 p.12 の歯車のところだが、大玉村には村のことや子どものことなどについていろいろな考えを持った人がいる。遠い歯車を近づけていくにはどうしたらよいか。

A 様々な機会（例えばPTA総会等）に質問するなどして、いろんな意見を聞いてみることである。その中から問題をどう捉え、どう解決していくかが大切である（自分一人の考えで完結しないようにする）。いろんな考えがあって、また、学校に問題がたくさんあるのは当たり前であるので、様々な意見や考えを出し合って、参加者みんなで解決していくことが大切であると思う。評価委員を代表して質問ををするという姿勢でよいのではないかな。

6 協 議

（座長 CS委員会副会長

矢吹吉信）

（1） 令和2年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について

- ① 各園・各校の素案についての説明及び熟議（各園・各校ごと）
 - 各園・各校ごと（グループ）の進行による



- ② 全体共有 ※重点事項及び変更点を中心に

ア 大山幼稚園班

- ・「自ら進んで意欲的に学ぶ子の育成」の実践事項2「考える力・表現する力の育成」に力を入れていきたい。特に、自分でじっくりと考える力の強化を図っていきたい。
- ・「興味・関心を持って伝え合うこと」についてはこれまでも取り組んできたが、そこにさらに「自分の考えを話す」という項目を入れ強化していきたい。そのためには、絵本を読む機会を多くする必要がある。家庭では、読書を増やすとともに、ゲーム・メディアと接する時間を減らすよう働きかけていきたい。

イ 玉井幼稚園班

- ・今年度のビジョンを通して、職員間で反省をしたところ、振り返りをしたところ等をお話させていただいた。「自ら考える子ども」「心豊かな子ども」「たくましい子ども」の教育目標、重点目標等について大きな変更点はあまりない。
- ・昨年度から3歳児が入ってきたことで、3、4、5歳児のバランスを考えた遊び方についてもしっかり見ていけたらよいという話も出た。遊ぶことを通して、いろいろな体験をさせたい。
- ・昨年の評価報告書の中にあった課題が、今年度も同じように出てしまっているので、振り返りながら来年度に向けたビジョン作成をしていきたい。

ウ 大山小学校班

- ・自ら考える子どもの育成に力を入れていきたい。分かりやすい言葉で表記するようにしていきたい。
- ・運営ビジョンのレイアウトとして、めざす学校像・児童像・教職員像をもっと分かりやすい言葉で表記していきたい。

エ 玉井小学校班

- ・現段階での今年度の成果を説明した。次年度は、児童については、基礎的な学力の定着だ

けでなく、「集団の規律」を見つけさせていきたいと考える。また、「先生方の授業づくり」や「一人一人を大切にした生徒指導の充実」に力を入れていきたい。

オ 大玉中学校班

- ・ 学校経営ビジョンに基づいた話をさせていただいた。新学習指導要領の開始に向けて、ここ2年間改善してきているので、次年度の方針等に関して変更点はない。
- ・ 本校の課題である「家庭学習時間・読書量の増加」「不登校、SNS等に起因するトラブル防止」「体力の向上と肥満防止」等については、家庭との連携が求められているので、学校独自で進めるのではなく、今まで以上に家庭や地域と連携して改善に向けて取り組んで行きたいと考えている。
- ・ 最終的には、子どもたちにコミュニケーション力や自己肯定感・自己有用感を育てていきたいと考えているので、今年度特に力を入れた「中学生が地域の行事に参画する」「地域貢献度を上げる」について次年度も取り組んでいきたい。

(2) 第11回教育フォーラムについて

① 事務局案の提示

- ・ 第11回大玉村教育フォーラム開催計画（案）の説明
- ・ 名称を「おおたまコミュニティ広場」と変更して実施したいことを提案（役員会での協議結果）

② 各園・各校ごとに検討

- 各園・各校の進行による

③ 質疑応答

- それでは質疑に入ります。いかがでしょうか。

- ・ 第1部で児童・生徒の発表の後、問題提起というのがあるが堅いように思われる。話題提起でいいのではないか。「子どもたちが考えたことについて、みなさんどう思いますか。」くらいでよいし、話しやすいと思う。

- ・ 今回、第1回おおたまコミュニティ広場と名称が変わったのには意味がある。昨年度、第10回教育フォーラムを行い一区切りしたこともあり、今年度からは心機一転、無理をしないで、集まった人が楽しかったなと思えるようなちょっとした広場ができればいいと考えている。先生方を動員するということも考えていない。今回各PTA会長さんに来ていただいた。このような集まり（コミュニティ広場）であるので、ぜひとも学校に戻りPTAの参加を呼びかけていただきたい。地域のことを保護者を含め考える機会としたい。集まった人数は100人であろうが、80人であろうが構わない。そういう気持ちであるので、よろしく願いたい。（CS会長より）



7 その他

（指導主事 斎藤一範）

今後の予定について説明…第8回委員会1／4（火）、第1回おおたまコミュニティ広場（第11回教育フォーラム2／1（土）、第9回委員会2／25（火）

8 閉会のことば

（おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さんお疲れ様でした。以上をもちまして、おおたま学園コミュニティ・スクール委員会を終わります。お寒い中ありがとうございました。